

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100482		
法人名	セントケア和歌山株式会社		
事業所名(ユニット名)	セントケアホーム中之島 (1階)		
所在地	和歌山県和歌山市中之島380-10		
自己評価作成日	平成25年10月28日	評価結果市町村受理日	平成25年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/index.php?act=on_kouhyou_det.ai.2012.022.ki_hon't.rue&ji_gvssyoCd=3090100482-00&PrEfCd=30&VersiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

くもん学習療法を取り入れ、認知症の進行予防およびBPSD症状の軽減を狙いとし、お客様とのコミュニケーションを大切にし、安心かつお客様とゆっくと過ごして頂けるように努めています。ご家族や友人の面会も多く、馴染みの方々との交友関係が継続して生活して頂ける環境となっています。キッチン専門スタッフを配置することで、お役様に手厚いケアが出来るようにし、安心し寄り添うケアができるように努めています。又、食に対してもこだわりをもち、栄養管理されたメニューを提供し、健康管理に日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業者は利用者との楽しいコミュニケーションを重視しており、安心してゆったりと生活ができるよう、全職員が寄り添うケアに努めると共に、既成のプログラムを活用して、認知症の進行防止に取り組んでいる。又食事は暮らし全体の中でも重要な位置にあると考え、キッチン専門スタッフによる栄養管理、衛生管理を徹底しており、まさに法人の経営方針に掲げる「利用者第一主義」の実践と言える。地域との交流についても、運営推進会議を活かし、事業所内外の環境整備等を通して地域で必要とされる活動や役割を積極的に担ってゆく取り組みを強めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の朝礼の際、経営方針書を読合せ、理念・方針等を共有しており、地域の一員として地域社会に貢献し、理念のもと日々自覚し支援しています。	事業所理念を含めた法人の経営方針書の読み合わせを常に行い、職員各自への浸透を図っている。管理者と職員は理念を共有しながら、日々のケア実践の基本としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とのつながりを大切にし、地域の清掃活動及び地域商店の利用も、地域との関わりを大切にしている。	事業所は地域の清掃活動への参加や、物品の購入に際しての近隣の商店の利用は広い意味での環境整備であると位置付けており、地域との良好な関係の維持・発展を目指し、積極的に交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、お客様の状況、ケア内容を報告し理解を深めて頂き、外出支援を行い地域への参加を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推移新会議を行い普段の取り組みについて報告をし、色々な意見をケアに反映出来るよう取り組んでいる。	運営推進会議には、家族や後見人、自治会長、民生委員、包括センター職員等の参加があり、事業所での利用者の生活の様子やサービスへの取り組み等を報告した後質疑応答を通して事業所への理解を深めてもらうと共にそこでの意見を検討し、実践に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター等、常に連絡し、運営推進会議にも参加して頂き、情報の共有、協力して頂くように努めている。	市に出向いた際や、運営推進会議開催時に、市担当者や包括センター職員に対して、事業所のケアサービスへの取り組み状況を率直に伝え、アドバイスを等得る等双方向の協力関係が築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念でもある「お客様第一主義」を周知徹底し、身体拘束をしないよう寄り添うケアを徹底し実践している。	理念の周知、研修の実施等により、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の日中の施錠はせず、ホールの出入りには部分的に制限はあるが、利用者の意を十分に汲んでの対応に努めている。又スピーチロックには特に注意を払い、自己点検、相互確認を常に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議等で内部研修を実施し、全スタッフに虐待防止について学び、互いにケアが虐待にちながっていないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方には、後見人の方に随時報告をおこない、スタッフにも制度について理解をしてもらうよう説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約まで、ご本人・ご家族との面談にて説明し、又契、約時での説明も含め解らない点はご理解頂けるよう説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様の状況を日々把握し、面会時や運営推進会議等でご意見を聞き、又、連絡を密にとり日々のケアに反映させている。	電話の際や面会時等を絶好の機会ととらえ、要望等家族の思いに耳を傾け、常にお互いが納得し安心してもらえるよう努めている。具体例としてメニュー等に対する意見があり、立案時に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議やフロアミーティングでスタッフの意見を聞き、又、個々の面談での意見をケア及び処遇等に反映させている。	定例会議、フロアミーティング、個人面談等の際に、職員の意見や提案を聞いており、管理者は自由に発言できる雰囲気づくりに努めている。勤務状況や物品の購入等に意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々に面談し話し合える機会を設け、希望される勤務状況等、やりがいを感じる職場環境の構築に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の力量を把握し、その人に対して必要なアドバイスを行っている。新人スタッフの方には、チェックシートを配布しチェックしながら研修・指導をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会における情報交換や、営業時などに情報交換をおこないネットワークづくりを構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に伴う不安感を軽減する為、ご入居前の面談を頻回に実施したり、安心してご入居して頂くよう一日体験が出来ることをお伝えしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に至るまでの面談をし、ご家族の不安を回避できるよう、又、安心して利用して頂く面談し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との面談の中で、支援計画を把握し、必要なサービスを検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お客様第一主義」「寄り添うケア」を徹底し、ご本人のペースで安心して生活出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に行い、人間関係を深め、ご家族とご本人がより良い関係でいられるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は基本的に夜間以外は自由にしており、馴染みの方々との交友関係が継続出来るよう努めている。又、外出や外泊も可能な限りして頂いています。	知人の訪問を受けたり、馴染みの理容所へは職員同伴で、墓参り等については家族の協力を得て出かけている。関係継続の有効な手段として、電話や葉書等を活用する事も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士、関係を深めていくよう、スタッフが架け橋となり、コミュニケーションはじめ会話などおこなっています。互いに励ますような場面も日常見受けられています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後であっても、ご家族からの相談に応じたり、ケアマネージャーと情報交換をおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や思いを把握し、その人らしい生活が出来るよう、又、要望にこたえられるよう支援している。	利用者一人ひとりの思いや希望を日頃の会話や様子等で把握し、事業所独自のシートに記録して職員間で共有している。意思表示の困難な利用者については、家族等からの情報も参考にして、本人の視点に立って検討し、対応するよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様にメモリーブックを書いて頂いたり、ケアマネージャーとも連絡を密にし、生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々お客様の状況把握に努め、医療とも連携し健康状態に配慮し、個々の身体機能維持に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の往診や訪問看護との連携し、お客様本位のケアが実践できるよう介護計画を作成し実施している。	主治医や看護師との連携を密にし、本人、家族等、職員と話し合いを重ね、関係者から出された意見やアイデアを介護計画に反映させている。又モニタリングを通して目標の達成度を測ると共に、状況の変化に即応して、介護計画の更新又は変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を日常生活記録に記録し、小さな変化を共有できるようにし、介護計画の見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に伴い、常に対応出来るようにしており、必要に応じ通院の介助や医療関係の紹介をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等、地域の情報を把握し、ご本人にあった資源を活用出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に添い、主治医を決めて頂き、定期的な情報交換を行い、必要に応じて受診等の支援を行っている。	利用者、家族等の意向を踏まえて、かかりつけ医を選定し、家族等又は職員が受診に同行しており、情報提供書等を用いて連携を図っている。又提携するかかりつけ医による往診がなされ、適切な医療が受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護の訪問があり、お客様の状況を主治医に報告、指示をあおいでいます。又、24時間の連絡体制をとり支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的な訪問をし、状態の把握に努めている。又、担当医や看護師より状態の説明を伺い、退院の支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際、看取りに関しての考えをお聞きしており、ターミナル時には、ご家族やご本人の意向に基づき、医療と連携を図りながら支援を実施している。	契約時に、重度化や終末期の対応に関し事前説明を行い、同意書等で確認をしている。段階毎に、本人、家族等、医師、看護師等の関係者と話し合いながら、情報の交換や方針の共有をしており、チームでの支援に徹している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練や研修を行い、朝礼時にはCPR呼称を行い、全スタッフが対応できるようにしています。又、消防署でのCPR研修にも参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定例会議等で、災害時の対応について確認し、避難経路の確認を定期的に行っている。	年3回利用者と職員が参加して避難訓練を実施すると共に、災害時対応マニュアルの定期的点検を行い、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけている。設備点検も定期的に行い、水、食料品等も備蓄している。	災害時には、事業所だけの対応には限界がある為地域の人々の支援が必要となる。日頃の近隣とのお付き合いや、運営推進会議等で事業所の状況を知ってもらい、地域の人々と共に訓練を行う等、地域との協力体制を築く事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パブリックスペースでは、お客様の話はしない事を徹底しており、個々の人格やプライバシーに注意し、常に対応に気を付けている。	個々の利用者に関わる事柄は居室でゆっくりと話し合い、排泄等の介護には目立たずさりげない声かけや対応を心がけている。又利用者の情報に関しても責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的な行動や要望には、すぐに対応出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様が選択出来るよう意識し、個々の生活ペースに合わせて、ゆとりを持ち支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の物が着れるよう衣替えを行ったり、女性は日々整髪、男性は髭剃りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜の盛り付けをお客様に手伝って頂き、又、テーブル拭きやお盆の片付けと、スタッフと共に手伝ってもらっています。	予め決めたメニューに、利用者の希望により手を加え、専門スタッフが調理にあたり、衛生面に注意しながら、利用者は持てる力を活かし、盛り付けや片付け、テーブル拭き等を職員と一緒にやっている。又月に数回は食レクとし、利用者が主役の食事づくり等を行っており好評を得てる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況に合わせて、形態や量を調整している。又、月2回食レクを実施しお好きな物を食べて頂いている。栄養がバランス良く摂取出来るよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、ご自身で出来る方は声かけし、出来ない方は介助している。夕食後は義歯洗浄し、必要に応じて、訪問歯科や歯科衛生士による口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう定期的なトイレ誘導を行っている。	チェック表を目安に、利用者の体調を考慮しながら声かけやトイレ誘導を行っている。オムツやパッドを利用する場合は必要な根拠を明確にし、職員間で情報の共有を図り、一人ひとりについて常に見直す事を心がけている。ほぼ自立が実現している利用者もあり、取り組みが実を結びつつある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の把握をし、便秘にならないよう便薬のコントロールにも注意し支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴によりスタッフとゆっくりと話をしながら週2、3回の入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	利用者の希望に合わせて少なくとも週2、3回の入浴が実施されており、折々の季節湯は利用者の楽しみの一つである。入浴を拒み勝ちな利用者については、チームで声かけや対応に工夫を凝らし実現に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間は個々に違う為、今までの生活習慣を大切に、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回、処方時は変更や注意事項がないかチェックし、全スタッフが把握出来るようにしている。又、薬によっての状態変化がないか観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの時間を設け、好きな事を楽しんで頂けるよう、出来る事を引き出し、やりがいを感じて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人と相談し予定を立てて散歩や外出が出来るよう支援している。又、月行事の企画をし、遠方へのドライブ等の支援も行っている。	基本的にはマンツーマンで対応しているため予定を立てて戸外に出かけているが、利用者の様子から判断して、随時外出で気分転換を図る試みをしている。面会を機に家族等と外食に出かけたり、外泊が実現するように支援している。又普段は行けないような場所へも事業所の行事に組み入れて出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より、おこずかいをお預かりし、買い物や外食の際にはできるだけご本人で支払が出来るよう支援している。毎月、ご家族に出納帳コピーと領収書コピーを送付し、管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望される時は、電話ができるよう支援しています。ご家族にもご本人からのお電話することもお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラウンを基調とし、ゆったりとできるような環境整備をおこなっています。観葉植物は本物にこだわり、お客様に感じて頂いています。又、室温、湿度調整にも気をつけている。	落ち着いた色調の共用空間に配置された観葉植物、利用者の習字等の作品、日めくり等は季節感や生活感を醸し出しており、利用者は思い思いにソファ等でゆったりと過ごしている。又五感刺激には全職員が特に注意を払い、環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっていますが、食事以外は御自由に過ごせるようにしており、ソファやテーブルの配置を工夫し、くつろげる空間づくりに心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご相談し、ご自宅で使われていた家具や思い出の品、アルバム等持ってきて頂き、居心地よく生活して頂くよう支援している。	利用者各々使い慣れた馴染みの家具や化粧品、家族の写真等を傍に置き、その人らしく暮らせる居室となっている。又プライバシーを守る為居室は内側から施錠できる構造となっているが、非常時は職員による解除が可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた「できること」「できないこと」の支援を把握し、安全かつ出来るだけ自立できた生活が出来るよう工夫している。		